TOKAI WAKASHACHI

わかしゃち

第7号　2002・4

土佐中・高同窓会・東海支部会報
編集人／35回生　内田順子
〒460-0024　名古屋市中区正木3丁目13-13　コスモホーム　気付
TEL　052-332-3370　FAX　052-332-3372
東海支部ホームページ
http://www.sun-inet.or.jp/~bunmura/

開校記念碑

旧制土佐中 開校のころ

東海支部顧問
十九回生　窪田　善一

土佐中にかかわりある人々にはそれぞれ忘れられない思い出があると思います。

歌手のディック三根さんがあるTVトーク番組で、〈土佐中・高の東大入学率の一位は続いています〉と、父上・旧土佐中初代校長三根先生のことがらを語っていたのが印象に残っています。

あの格調高い開校記念の碑の文を読むと身のひきしまる思いがします。

入学試験の前に土佐中の先生が小学校にこられたことがあります。教室での受験生を観察するなど、念入りのことだなと小学生なりに感じました。これはアイビーリーグの大学で行われていると知ったのは後日のことですが、何か並とは違う考えや運営方針をもっていたと思います。どのような方々が開校に向けての英知をかたむけていたのだろうと、感謝の思いです。

三十名クラス一学年一組編成で、全校生徒、特に上級生の方々を知る機会が多く、又、諸先生方との交流も深く、家族のようなまとまりがありました。

そして、いつも耳に入ってくるのは〈指導者となれ〉との言葉でした。

『アメリカのスーパーエリート教育』のタイトルで刊行された書物のテーマ群すなわち、自主性・規律・奉仕・個別教育・少人数制・各自の独自性の発見などは、まさに旧土佐中で行われていたのであります。

しかし、このシステムも時代に翻弄されます。戦雲ただよう昭和十年代になると、国家権力により自由が制限され、土佐中の良さも型にはめられはじめたのです。そして第二次世界大戦終戦で学制が変わり旧土佐中の終幕となったのでした。

学事報告

学校長　森田　幸雄

早いものでいよいよ早春弥生の季節の到来です。正に二月は逃げるの諺を実感しています。さて大高坂支部長さんを始め会員各位には日頃本校教育振興のため多大のご支援を頂き心から御礼を申し上げます。

この度は会報「わかしゃち」第7号発行のご連絡を頂きいつもながらのすてきな出来栄えを期待すると共に関係者各位のご努力に敬意を表する次第です。今から五年前、当時の松崎支部長さんから懸案であった会報「わかしゃち」創刊のお知らせを頂き心からご祝福申し上げたものでした。今回は数えて早くも第7号とのこと、東海支部生々発展の証を見る思いで重ねて敬意と祝意を表させて頂きます。

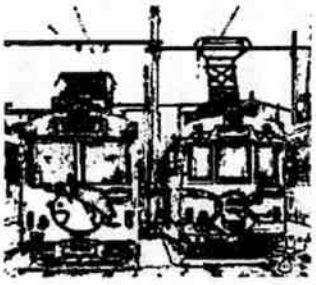
次に今学期の主だった行事などについてご報告いたします。去る一月三十一日、第七十七回高等学校卒業証書授与式が恙なく挙行されました。幸い天候にも恵まれ新同窓会長池上武雄殿にもご臨席頂き盛大かつ厳粛に終了出来たことは学校としてこの上ない喜びでありました。今回の卒業生数は男子一九八名、女子一〇六名計三〇四名で新同窓会員として同志に加えて頂くことになりました。先輩各位の温かいご指導とお引立てを希って止みません。現在はほとんどの諸君が大学入試に挑戦中ですが昨年以上の好結果を期待しかつ祈っています。また卒業式に先立つ一月十四日から六泊七日の高一生修学旅行が実施されました。越後湯沢でのスキー研修に引続き、東京都内での十部門に及ぶコース別研修を取り入れ、より充実した集団学習を目指しました。例えば政治法律コースでは弁護士会館、国会、憲政記念館等を訪問し見聞を広めました。その折りには先輩の市川直介、小松岳志両弁護士さんや、中谷元防衛庁長官殿の手厚いお世話に相成り感謝の外ありません。この外他の部門も予期以上の成果を収めることが出来ました。新教育課程でいう総合学習の先駆けとしての取り組みとも言えようと密かなる自負を感じているところです。

さて中一、高一とも合格者も決まり新年度へ向けての新しい鼓動が伝わり始めました。新世紀二年目の新たな飛躍目指して挙校態勢で頑張って参ります。先輩諸兄姉の暖かいご支援の程お願い申し上げます。

ところで土佐路におけるプロ三球団のキャンプも先日終了いたしました。報道によると新記録の観客数ということですが、特に阪神の安芸キャンプが傑出しており、星野人気の異常さを物語っております。この上は何としてでも猛将のもと、虎復活を願わずにはおられません。中日ファンの皆様にはなんだかこそばゆい気がしております。

寒暖なお不定の折から、会員各位のご健勝と、東海支部の更なるご発展をお祈り申し上げ学校からの報告とご挨拶に代えさせて頂きます。

（平成十四年　ひな祭りの日）



同窓会あちこち

本部だより

土佐中・高等学校同窓会会長
二十八回生　池上　武雄

東海支部の皆様にはお元気でご活躍の事と存じ心からお喜び申し上げます。

土佐中・高等学校同窓会もこの二月に新しい77回生同窓会員を迎え、同窓生も一万六千名を越える事となりましたし、関東・東海・関西・広島・香川には支部があり支部ごとの集まりや活動を通じて連携を深め母校への協力、同窓会活動の活性化のためご協力を頂いております。

私は昨年8月、土佐中・高等学校同窓会総会で会長として、ご選任頂いた後、新しい本部役員の皆さんに三つの基本的な考えを披瀝しご協力をお願いしました。

一つは理事会直轄の委員会である百年委員会、TSL委員会を同窓会として全面的にサポートし、生徒が集まる魅力ある土佐高づくりに協力をしたいということです。

百年委員会は土佐高の百周年を意識した学校全体のあるべき姿①20年後における土佐高の存在意義　②教育方針　③教育方法　④運営方法　⑤新校舎の建設等について改革の視点で検討をする会であります。

TSL委員会は学校の先生方の研修を企画・実施する委員会で「他の学校見学」、「生徒実態調査」等について検討が進められていると承知しています。

二つ目は財務の強化改善に取り組み同窓会をさらに活性化させたいということです。限られた収入の中どうすれば良いのか智恵を出し合ってみたいと考えます。

三つ目は役員が積極的に意見を出し合い仲良く、協力一致して運営にあたって欲しいということです。

微力ではございますが、これらの実現に向け、本部役員と一丸となり努力を致したいと考えております。最後になりましたが全国津々浦々で活躍されている同窓諸兄姉と共に東海支部の皆様の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げご挨拶とさせて頂きます。

新役員体制

会長	28回生	池上武雄
副会長	32回生	溝渕真清
	35回生	中橋一郎
	39回生	森木房恵
	40回生	横田整二
	42回生	川崎康正
幹事長	39回生	安岡範悦
副幹事長	34回生	永野和宏
	47回生	岡田　容
	48回生	西山彰一
会計	61回生	宮地貴嗣
会計監査	58回生	千頭　裕
	32回生	森木将雄
	40回生	田中章夫

高知新聞　平成14年3月5日(火)付
朝刊記事

土佐中高

新校長に池上氏（四銀前専務）

高知市出身
野球部OB

民間企業出身は初

池上武雄氏

土佐中高校は四日、森田幸雄校長(七二)の三十一日付での退任と、その後任として四月一日付で四国銀行前代表取締役専務の池上武雄氏(六七)の就任を発表した。同校に民間企業出身の校長が就任するのは初めて。

池上氏は高知市出身で同校野球部OB。昭和三十二年慶応義塾大学法学部卒業。同年四国銀行に入行し、神戸、高松支店長などを経て平成九年代表取締役専務に就任。十二年六月に退任した。現在は同行相談役。現住所は同市本宮町。

母校に恩返し

池上新校長の話　突然の要請で驚いたが、母校に恩返しをする気持ちで、愛情を持って子どもの資質を磨き、自立精神の強い生徒を育てていきたい。教育界での経験はないが、礼節を尊び、文武両道を目指す伝統を引き継ぎ、活力のある学校づくりに全力投球する。

関東支部だより

幹事
四十一回生　西岡　恒憲

東海支部の皆様、お元気ですか。この冬は大変寒い日が続くこともありましたが、関東では一度も積雪は見ませんでした。やはり暖冬なんでしょうか。今はやや暖かくなって白梅紅梅が満開の季節になっております。この「わかしやち」が出る頃は桜も終わっている頃でしょうか。

さて、今年に入ってからの関東支部の活動を簡単にご紹介いたしますと、まず、1月17日に筆山会の新年会が行われました（写真）。老いも若きも(?)和気藹々と新年度のスタートを祝い更なる懇親を深めました。

2月9日には、今年の本格的な支部活動を開始するべく、オリンピック記念青少年総合センターにて、『平成14年学年幹事会』を開催致しました。出席は最年長16回生の吉澤信一さんから現役大学生74回生小林愛さんまで総勢37名。宮地貫一関東支部長よりご挨拶をいただいた後、平成13年の活動報告・会計報告及び平成14年活動計画が承認されました。

またこの日から、平成14年度関東支部総会の準備会がスタートしました。何度か会合を持ちながら、6月1日（土）のオリンピック記念青少年総合センターにて開催予定の関東支部総会に向けて、総会幹事の皆さん方には大いに頑張って頂けることでしょう。

なお今年は役員の改選期に当たり、学年幹事会において新役員が選任され、いずれも満場一致で決議されました。特記すべきことは、この10年間、老骨に鞭打ちながら(?)頑張っていただいた鶴和千秋事務局長（41回）が事務局長を退任され、新事務局長に55回生の金澤由里さんが就任されました。関東支部にもついに女性事務局長が誕生いたしました。今後とも皆様のご支援ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

関東支部の新体制は以下のとおりです。

《関東支部役員》
支部長　宮地　貫一（21回）
幹事長　市川　直介（52回）
副幹事長　山中　和正（24回）
〃　佐々木泰子（33回）
〃　〃　鶴和　千秋（41回）
〃　〃　二宮　潔（49回）
〃　廣瀬　裕子（60回）
会計　小松　岳志（70回）
会計監査　吉井　雄二（49回）
〃　森木　隆裕（59回）
事務局長　金澤　由里（55回）

〈常任幹事〉
名簿委員長　川上　司（52回）
筆山編集長　西岡　恒憲（41回）
HP編集長　筒井　康賢（41回）
総会責任者　佐藤　さと（57回）

〈顧　問〉
進藤　貞和・北岡　龍海・近藤久寿治・曽和　純一・山本　高敬・浅井　伴泰・吉野　保徳・溝渕　真清・窪田　秀忠・大石　和男・岩村　康生

平成14年1月17日　関東支部筆山会新年会

なお、永年関東支部の顧問として同窓会に多大のご貢献を頂きました3回生の進藤貞和大先輩（三菱電機株式会社特別顧問、元社長、会長、相談役）が、去る2月22日お亡くなりになられました（享年91歳）。4月3日三菱電機による「お別れの会」が催されますが、この事を含め、7月発行予定の支部会報「筆山」紙上で詳しくご報告いたします。

香川支部だより

香川支部長
三十二回生　土田　哲也

東海支部の皆さんはじめまして。香川支部は平成８年７月に設立された新しい支部です。以来、本部・先発４支部と総会時に相互訪問をさせていただいてやっと仲間入りしたという実感が湧いてきたところです。私自身は、一昨年の東海支部総会に参加させていただき、皆様と交歓の機会を得ました。

香川の最近の様子を紹介します。行政区域でも、その他の面でも、中国・四国という括られ方が一般的で、四国は置き去りにされ勝ちな地域ですが、高速自動車道が４県の県庁所在市につながり、本四架橋も３本架かり、辺境の地ではなくなりつつあります。連絡船の発着場であった港周辺は様相を一変しました。しかし、ハードは一新されても人口が少なく、大企業もなく、長引く不況もあって物流・観光客とも低迷していて、立派な施設も妙に淋しく不調和な感じがしないでもありません。

それにもかかわらず、香川県で仕事をしている土佐高の卒業生は元気です。支部会員は２００名ほどいるようですが、総会に出席するのは、例年３０ないし４０名です。セレモニーから始めても、すぐ懇親会になるのはいつものことです。まだいきつけの店や場所が定まっていませんが、ついでがあったら、どなたでも参加してください。歓迎します。当支部は、７月第１土曜日を総会日と決めています。なお、支部会報「かけはし」というのを発行しています。悩みの種は、転勤で移動する人が多いのと、新人（学生も含めて）が増えないことです。

四国も今年は、寒い日が続いています。名古屋近辺は厳しい寒さのようですが、御健勝でお過ごしください。

関西支部だより

事務局
四十六回生　中山眞知子

「わかしゃち」にこの支部だよりが掲載される頃は、目に青葉・初鰹の頃でしょうか。

東海支部の皆様こんにちは。関西支部の今、をお伝えします。

① ２００２年３月23日（土）大阪・梅田のザ・リッツ・カールトンホテル大阪にて関西支部総会が開催されました。

貴支部からは、南事務局長にご出席頂きました。有難うございます。

この総会にて、支部長交代が承認されました。１９９７年に就任、５年間支部をリードされた永野元玄支部長（29回）が退任。新支部長には、川崎美榮子氏（42回）が就任しました。各支部の先頭切っての女性支部長誕生で、関西支部もより一層支部活動の充実をはかります。

② 関西支部会報「なんぷう」の編集長が交代しました。

昨年、森岡周作編集長（31回）よりバトンタッチしました新編集長・鎌田振吉氏（41回）のもとで第22号を発行。編集委員を充実させ、取材網を広げ、意欲的に取り組んでいます。

③ 支部活動を円滑にするため、支部会員より一口１０００円の会費をお願いしています。会計報告は総会にて承認されました。

④ ２００３年の関西支部総

平成14年3月23日　関西支部総会

会はすでに日時が決定しております。1月18日（土）会場は、ザ・リッツ・カールトン大阪です。詳細はまた改めてご案内致します。

内装も重厚な木造りで、お料理も美味しいとの評判。鰹のたたきを中心とした皿鉢や、高知大橋通の森岡蒲鉾店から取り寄せたてんぷら、土佐の大吟醸桂月もご用意しております。東海支部の皆様もぜひご参加下さい。関西支部幹事一同嬉しくお待ち申し上げております。

⑤ 関西支部公式ホームページは次の通りです。

http://www.tosa-ko.org/kansai/

広島支部だより

広島支部長
四十回生　沖　修一

東海支部の皆様こんにちは。

広島支部も元気に活動しています。平成13年の広島支部総会は10月27日に行いました。講演には福井大学名誉教授山本浩史先輩（26回生）の「物理の話」を拝聴致しました。難解の物理を数式を殆ど使わずに、わかりやすく話していただきました。講演後には質問もあり、予定時間を超過してしまう程でした。東海支部からは大高坂秀雄支部長様（31回生）がご出席されました。学校からは浜田俊充教頭先生（35回生）にご列席をいただき、学校の現状についてお話をいただきました。また、同窓会本部からは新しく幹事長になられました安岡範悦先輩（39回生）にご参加をいただきました。安岡先輩の発案で、在学中を含めて初めて校歌を一番から四番まで通して歌いました。安岡先輩の持参された校歌のプリントには歌詞の漢字に振り仮名が書き込まれており、特に二番と四番では振り仮名がないと歌詞の読めない自分に愕然と致しました。歌っている最中に、姿勢を正し、伸ばした両手の薬指をズボンの横の縫い目に揃えている安岡先輩を見ていると、二番、四番の歌詞の内容と相俟って、彼の母校と同窓会に対する熱い思いが伝わってくるようでした。ところで、なぜ校歌の二番と四番が歌われなくなったのでしょう。校歌を通して歌うと時間が長くかかるせいでしょうか、二番と四番の歌詞が軍国主義？と考えられたためでしょうか。ここらの事情がおわかりの方はこうした同窓会機関誌の誌上でご発表いただければ幸いです。

広島支部の最大の悩みは若い世代、特に大学生・大学院生の参加が少ないことです。若い人たちは、職場でも同様ですが、皆で一緒にというよりは気の合った者同士少人数で楽しむ傾向が強く、組織への帰属意識が希薄になっているように感じます。また、支部総会に参加するためにはなにがしかの出費を余儀なくされることも理由の一つでしょう。広島は、土佐高卒業生が

広島支部総会での校歌斉唱
野球部OB山本紳さん（55回生）

広島支部総会懇親会

最も多く進学する大学が電車とバスで一時間程度かかる隣の東広島市にあり、広島に出てきたときに夜遅くなると帰れなくなることも考えられます。二年ほど前に関東支部にならい支部総会への参加費を学生は無料にしたところ、結構な数の学生が参加してくれましたが、所帯の小さな広島では支部の負担が大きかったことも事実でした。若い世代の参加を促す良い処方箋をお持ちの方は、そのノウハウをお教え下さい。

広島にはアコウダイ、タイ、メバル、ハゲ、オコゼ、ヒラメ、小イワシ、瀬戸貝、ワタリガニなどの瀬戸の魚介類に加えて、神石牛（狂牛病はありません）というとてもおいしい牛肉もあり、食通にはこたえられません。ハンカチを一枚多く持って訪ねる江田島の旧海軍兵学校には格別の思いを感じることでしょう。一人でも多くの同窓生が広島を楽しまれることを広島支部会員一同念じてやみません。

われらわかしゃち

大嶋校長先生の思い出

三十四回生　久永　洋子

同窓会名簿が新しく配られるとともに分厚くなり、私たちは次第に前へ前へと追いやられていくように思う。しみじみと年齢を意識するときでもある。

大嶋光次校長先生がお亡くなりになってから四十数年になる。先生を知らない卒業生の方が、断然多くなったのではないだろうか。私には忘れられない先生の思い出がある。

授業中、しんとした中に、しわがれた咳払いの声と共に、よく教室を見て廻っておられた。今思うと、それは先生の最晩年にあたり、身体はやせられる限りやせておられたが、背筋はしゃんと伸びて、あたりを払う気迫があった。私たち生徒は、先生が教室の前を通り過ぎるまで、緊張したものだった。生徒の集会で繰り返し言われたことは「学問とスポーツの両立」だった。学問のみならずスポーツの面でも秀でた人材を育てたい、その両方の面において土佐高の名を全国に高からしめたいという熱意は、先生の細い身体を貫いて空に昇る執念のように私には思われた。繰り返し、時々はとぎれる声の中で、生徒達に語りかけてくださった。この情熱があったからこそ、戦後の何もない土地に、土佐中、土佐高が復興したのだと感じられた。人生における仕事への情熱ということについて考える時、私は大島先生を尊敬せずにはいられない。

先生がお亡くなりになったのは、私達が高校三年になった春だった。現役の校長先生であり、土佐高の魂が失われたような時だった。私は学校葬で、弔辞を読ませていただいた。今になって、あの大島先生をお見送りする言葉を私が読ませていただいたのは不思議な気がする。先生に申し訳ないことではなかったかと思う。

その夏、私は進学をあきらめて就職を決めていた。勉強することに対して方向を見失っていた。先生の初盆の日、私はお宅に伺わせていただいた。人気のとだえたご仏前で、奥様は熱心に私に勉強を続けるようにと話された。苦学生であった先生が、どんなにご苦労なさったか。学問は若い時にしておかねば、あとで何倍のエネルギーがいることか、若い時にどれだけでも勉強しておくことが大切だと話された。先生は口癖のように、そう話されていたと言われた。

おいとまして帰り途、百米程歩いて振り返ると、暑い夕日の中、奥様はまだじっと立っておられた。あの時奥様が見送られたのは、私個人ではない。大島先生があんなに期

待をかけられた無数の土佐高生の背中であったと思う。

母校とは、本当に不思議なものだ。十二歳から十八歳までのたったの六年間を在籍したに過ぎない。しかし、その後の何十年間に影響を与え、心の支えとなってくれる。

母校を忘れなければとか、乗り越えなければとか、気負って思った時期もあった。しかし、大勢のすばらしい同窓生との交流とともに、母校の思い出は生涯の宝となって励ましてくれる。心から感謝している。

夢のエイジシューターへ〈私とゴルフ〉

三十二回生　石田　章夫

私が最初にゴルフに出会ったのは昭和四十三年末。中大野球部OB会が東京で開催され、その席で明日ゴルフをやろうと言うことになり、先輩からお前もやれといわれ、一度もクラブを握ったこともないし、練習もしていないのでやれないと断りましたが、野球と同じだから大丈夫だということで、かの有名な『小金井カントリークラブ』で、道具・靴・帽子・ボール等全て借りてやったのが最初であります。そのときの記憶ではボールを打つのはそこそこでしたが、アプローチとパターが全然だめで〈いったりきたり〉のくり返しで、スコアは一四〇ぐらいだったと思います。

昭和四十年頃のゴルフは、お金持ちの遊びで、我々のような庶民には縁遠い遊びで、練習もそこそこ、年五～十回位のプレイしかできませんでした。

本格的にゴルフを始めたのは昭和五十五年『名岐国際ゴルフ倶楽部』の会員になってからであります。ハンディキャップをとらないと競技には出場出来ません。ハンディを取るためには、五枚のスコアカード提出が必要です。早くハンディがほしいので一日二ラウンドしたこともあります。一か月位して待望のハンディ十三をもらいました。

いろいろの競技に出て優勝しましたが、五十六年四大競技の理事長杯で優勝しハンディ十になり、六十二年二回目の理事長杯で優勝して念願のシングルプレーヤーになる事が出来ました。

ゴルフは奥が深く、なかなか上手になれませんが齢をとっても、それなりに出来る競技で、意欲を持ち無理せず練習をつみ、身技体の充実を図っていけば、それなりのゴルフは出来ると思っております。

ホールインワン、エイジシュートを夢みて、これからは健康に留意して長くゴルフを楽しみたいと思っております。

名古屋からの吉報

五十二回生　清谷　知郎
（東海支部OB）

土佐高での六年間は学校へ行くこと自体が楽しくて、もし休んだら〈なにか面白いものを見逃してしまいそう〉などと感じて〈多遅刻無欠席〉といったかんじで過ごしていた。

むろん優等生だった訳でもなく、頭の切れる同級生との会話や、飛びっ切り個性的な教師陣の名物講義が目的だった。

二年間の浪人生活のあとに入学した大学は丸きり正反対。

〈豊明の北朝鮮〉と先輩たちが呼ぶ理由は入学直後に分かった。徹底的な管理教育。

カリスマ総長による恐怖政治が敷かれており、全くなじめずに早々と休学してしまう。

しかし、そんな私を見捨てず温かく見守ってくれる方がおり、故郷に戻ってうっ屈した思いで悶々とする私にこう

いう電話をかけて来てくれた。

「おーい清谷君、今度ナゴヤ球場を借りられることになったもんで、お前も来ないか」

指導教授の岸川輝明先生だ。

涙が出るほど有難く感じた。

翌年の春に復学したが、やはり気おくれして〈不登校〉に近い状態に陥っていたのだ。

すると心配した先生が毎朝アパートのドアをノックして下さったのである。

やがてなんとか気を取り直して大学に通うようになり、〈指導教授コンパ〉では必ずある芸を披露する羽目になる。

それが〈ビール大びんラッパのみ〉だとは口が裂けても言えないが、私の唯一の特技。

その後もずっと指導学生として可愛がって下さって、御自宅でのバーベキューパーティに呼ばれたり、本当にナゴヤ球場での病院対抗戦でもプレイさせて頂いたり幸せだった。

ただ、岸川教授の専攻は小児外科であり、私の両親は内科だから跡を継ぐためには入局するのはためらわれた。

彼は〈中日ドラゴンズの影のオーナー〉と自認しており、コーチや裏方さん、選手達との交流が深く、指導教授コンパにもスター選手や現役のコーチがゲストに呼ばれたりして大いににぎわったものだ。

ヤレ頭髪検査だ、ヤレ指定席につけ、ヤレ総長の異様に長いお説教だなどという潤いのない普段の生活の中では、岸川先生に接している時はまるでオアシスのようだった。

卒業してからは大学にはほとんど寄りつかず、したがって先生にも随分とご無沙汰してしまう。

そんなある夜に電話が入る。

「俺だ、岸川だ！清谷君、今度病院長に就任することになってまったがや！」

突然の吉報に思わず視界がぼやけ、眼鏡を外して嬉し涙を拭った。

そのあとは野球やゴルフの話などになる。

「この前はドラゴンズの山崎や井上とコンペをして、優勝は宇野だった」

楽しそうに話を続ける先生に相槌を打ちながら〈この人がいらっしゃらなかったら、俺は絶対に医者になれなかった〉という思いを新たにする。

人の縁の不思議さに思いを馳せてみる。

その夜はとっておきのウイスキーの封をあけ、日進市出身の妻と名古屋の方向に向けて何度もグラスを合わせた。

「よさこい国体」リハーサル大会にて
左端筆者

わかしゃち応援席

フレーフレー土佐高！

宮本　裕司
（千葉県在住）

拝啓

私自身は、南様の母校ＯＢの玉川寿選手と同年代という以外全く土佐高校との接点はないのですが、52回卒業生の清谷知郎氏（現在は、宿毛市で開業医をされています）が、創立70周年記念に出版された『アルプス席の全力疾走』（ペンネーム　崎村泰斗）を読ませていただいたご縁で、交流させていただいております。氏が上京された折り、話す機会が何度かありました。熱狂的土佐高野球部ファン（事実甲子園での応援団長だったとか）の氏が、酔うほどに語られるのは2点です。

① 何としても甲子園に出場し、全国制覇して欲しい。

② 東京6大学（いわゆる難

関校、東京大学や慶應義塾大学）に進学して神宮でも活躍し冠する土佐の名を世間に広め、元祖文武両道校の範を示して欲しい。

門外漢の私も同様な見解です。

土佐高野球部が甲子園から遠ざかり、加えて東京6大学のレギュラーとして活躍されている方も少ないせいか、今の世代の野球少年達への知名度は「？」です。

関東地区では、有名学習塾の合格実績に「土佐塾中・高」が掲載され一般人へのアピール度は土佐塾が一枚上といった状態です。

清谷さんと復活プロジェクトを立案し、東京のOB弁護士市川さん達に資料を勝手に上程させていただいた次第です。

この4月からは校長先生も野球部OBの池上氏に代わられると聞き、変革を期待している今日この頃です。

私のまわりのシニアやリトル球児の親御さんたちは、「どこの中学、高校に進ませたほうが将来、本人のためになるのか？」と日々頭を悩ましておられます。

野球を怪我もなく順風満帆にやっていられる内はいいでしょう。その後の人生をうまく切り開いていけるでしょうか。職業選択という人生の岐路を幅広く捉えられるのは、貴校の野球部を除いては考えられません。文武両道をめざして甲子園出場、そして大学野球としての神宮での活躍、ひいてはメジャーを夢見る若者達に、どうか土佐高野球部を紹介してあげてください。これから少子化社会を迎えるにあたって、真の名門校として日本のみならず世界にアピールしていただきたいと思い、意見させていただきました。

籠尾元監督が書かれた『全力疾走30年』の中で、慶應義塾大学野球部の3連覇の立役者であった萩野投手が、ピンチになるとマウンド上の青空を見上げ、お母さんを思い浮かべるというくだりが、私が土佐を応援したいと思ったすべてです。こんなに純粋な気持ちで野球をやっている集団は他にありませんでしょう。

そして、私の社会人生でいろいろ教えてくださったのが、たしか49回生OBの畠中実さんでした。今は、当社を辞めて山梨でログハウスの会社「アシスト」を興されています。

私自身土佐高OBではありませんが、目に見えない引力が働いて、少しでも貴校のためになにかお手伝いしたいという気になるのです。

では、お元気で。

名古屋に赴任しましたら、連絡させていただきます。

敬具

平成14年3月22日

編集後記 なるほど・ふむ

二〇〇一年九月の同時多発テロ以後、世界の火種は尽きず、日本の不況・政治的混乱どこまでいくのかという毎日です。自分自身でよく考えることが少しでも明るい社会へのステップなのでしょう。中部は、二〇〇五年の万国博覧会『愛・地球博』へと向かっています。（内田順子）

土佐中・高同窓会東海支部役員紹介

平成14年4月現在

顧問　窪田善一（19回）
　　水谷　昭（22回）
　　福永康身（28回）
　　下山貢男（32回）
相談役　松崎正雄（28回）
支部長　大高坂秀雄（31回）
幹事長　竹原泰明（36回）
副幹事長　村山文世（41回）
幹事　内田順子（35回）
　　山崎博司（44回）
　　天造豊彦（52回）
　　瀬沼憲司（64回）
会計監査　二神良太（33回）
事務局長　南　毅一（37回）